

安倍政権の評価 その3

ChatGPT との対話

経済政策はうまく行かず、国内の賃金は全く上がらなかった点はどう評価しますか？

核心を突いたポイントですね。この点は、歴史評価でも「かなり厳しく書かれる部分」になると思います。

結論から言うと、「雇用と企業は救ったが、生活者の所得構造は変えられなかった」という評価に落ち着く可能性が高いです。

- まず事実関係の整理（感情論を外す）

- * 名目賃金：「ほぼ横ばい」
- * 実質賃金：「長期的には低下傾向」
- * 労働分配率：「低下」
- * 企業内部留保：「大幅増加」

つまり「景気回復の果実が労働者に回らなかった」、これは統計的にも否定しにくい事実です。

- なぜ「賃金が上がらなかった」のか（構造的評価）

ここが重要で、単なる政策ミスではありません。

- ① アベノミクスは「賃金を上げる仕組み」を持っていなかった

- * 金融緩和 → 円安・株高 → 企業収益改善、までは想定通り。
- * しかし「賃上げは企業の自発性に委ねられた」

👉 政策として「賃金上昇を強制・制度化する仕組み」が存在しなかった。

- ② 日本企業の行動様式を読み違えた

安倍政権の暗黙の前提は：「利益が出れば、企業は賃金を上げる」

しかし現実には：

- * デフレ 30 年の記憶
- * 将来不安（人口減少）
- * 正社員の固定費回避

結果：

- * 賃上げより「内部留保・配当・自社株買いを優先」

👉 これは「経営者の合理行動」であり、道徳の問題ではない。

- ③ 非正規雇用モデルを温存したままだった。

- * 雇用者数は増えた
- * だが増えたのは「低賃金・不安定雇用」

つまり：失業率は下がる、平均賃金は上がらない、「雇用の量」を取って「質」を後回しにした選択。

- 歴史的評価：ここは「失敗」と書かれる可能性が高い

歴史の視点では、かなり率直に：

* デフレは「心理面」では転換した、しかし

* 賃金

* 生産性

* 人的投資

には決定的な変化を起こせなかった

よく使われそうな表現は：「マクロ安定化には成功したが、分配改革には失敗した」

あるいはもっと辛辣に：「金融政策で時間を稼いだが、その時間を構造改革に使えなかった」

- では「上げようとはしなかった」のか？

ここはフェアに見る必要があります。

実際には

* 経団連への賃上げ要請

* 官製春闘

* 同一労働同一賃金

などは行った。ただし：いずれも「弱い・遅い・部分的」「労働市場・教育・移動の改革」は中途半端
政治的に最も難しい領域を避けた、とも言える。

- 海外からの経済政策評価はどうなるか

海外ではかなり冷静で：

* Abenomics stabilized Japan but failed to reflate wages*

* An incomplete experiment*

つまり：

* 「壮大な社会実験」

* 「やらなければもっと悪かった」

* しかし「成功例」として輸出されるモデルではない。

- 総合評価（この論点に限って）

この一点に絞るなら、歴史評価はかなり明確です。

安倍政権は、賃金停滞という日本最大の問題を「解決」ではなく「先送り」した政権だった。

ただし同時に：その先送りがなければ、日本はもっと早く縮小均衡に陥っていた可能性も高い。